

派遣者番号	31K13	氏名	原口 慎太郎
研究主題 —副主題—	外国語活動の指導に自信がないと感じる学級担任の不安解消への取り組み —苦手意識を共有し、実践的な指導のアイデアを伝達する短時間研修の実践を通して—		
派遣先	東京学芸大学 教職大学院	担当教官	大村 龍太郎
所属	稲城市立城山小学校	所属長	佐藤 英樹

キーワード： 小学校外国語教育 外国語活動 外国語科 教員の不安 校内研修

1 研究の背景(目的)・主題設定の理由等

新学習指導要領の全面実施が迫り、小学校の英語教育が大きく変わろうとしている。移行期間であったこの2年間、各小学校では様々な準備が進められてきた。しかし、未だ外国語の授業に対して、自信のなさを感じている教員の声を多く聞く。

都内公立小学校のA小学校においても、外国語活動の授業に対して不安を感じる傾向が、学級担任の中でよく見られていた。そこで、外国語活動の授業に対する意識調査を目的として、同校の学級担任にアンケートを実施した(全12名、4択のリッカート尺度)。その結果、11名の教員が、外国語活動の授業を行うことに自信をもてず、授業の行い方についての理解が不十分と感じている実態が明らかになった。

このような学級担任の外国語の授業に対する不安に関して、池田、今井、竹内ら(2017)は、その原因をピンポイントに解決していく校内研修が求められていることを明らかにしている。また、米崎、多良、畑ら(2016)は、その施策として、気軽に相談ができるネットワークの構築が急務となることを述べている。トップダウン式ではなく、教員同士がコミュニケーションを図りながら、その不安を解消していく研修の形が必要であると考えた。

本研究では、外国語活動の授業に対して不安を感じる教員が多いA小学校において、その不安を解消するための研修を構想し、その有効性を明らかにすることを目的とする。

2 研究の方法

(1) 短時間研修の企画立案、実施

先行研究の結果を加味しながら、教員の不安解消に有効に働く校内研修の形として、短時間研修を考案、実施した。本研修には、以下の四点の特徴をもたせている。

- ① 参加の敷居を低くする研修時間等の設定
週に一度、職員夕会内の時間を活用した10分間の研修という形で行う。
- ② 気軽にコミュニケーションをとって学ぶ流れ
ア 授業で扱う活動(ゲームや歌など)の紹介
イ 全教員で体験
ウ 指導の際の留意点を確認
上記の流れを研修の基本形とする。体験を通して、授業の具体的なイメージを構築させる。
- ③ 授業の基本的な理解につながる研修内容
外国語活動の授業の構成を四種類に分類し、それぞれの内容を順番で紹介する研修内容とする。オーソドックスで、アレンジのしやすい活動を中心にした。
- ④ 授業準備の負担軽減につながるコンテンツの紹介・配布
紹介する活動で用いるワークシートや絵カードなどは、データ共有や配布を行う。

(2) 有効性の検証

短時間研修実施前・実施中・実施後の計3回、学級担任12名を対象にアンケート調査を実施した。そのアンケートの変容から、教員の不安解消がどの程度実現し、その要因の手だては何であったかを分析した。さらに、不安解消が十分になされていないと捉えられた教員にインタビューし、その要因を明らかにした。

3 研究の結果

(1) アンケートの回答結果(抜粋)

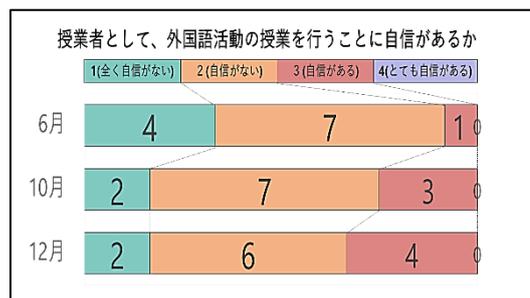


図1 アンケートの回答結果の変容(授業に対する自信)

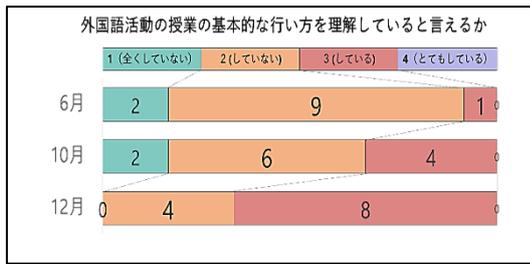


図2 アンケートの回答結果の変容
(授業の基本的な行い方への理解)

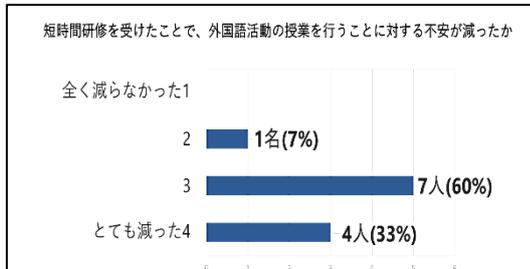


図3 アンケートの回答結果
(短時間研修を受けたことによる不安の変化)

外国語活動の授業を行うことへの自信について、5名の教員に数値の改善が見られ、7名の教員は変化が見られなかった(図1)。基本的な授業の行い方の理解を問う項目では、8名の教員が数値の上昇が見られ、本研修の効果が確認できた(図2)。さらに、年間を通しての不安の解消にかかわる項目では、12名中11名の教員が不安解消に有効であったと回答した(図3)。

(2) 教員インタビューの回答結果

(1)で「自信」の項目の変化がなかった7名の内、4名にインタビューを行った。その結果、4名全員から、実施前に比べ不安が緩和したという回答があった。自信の数値に変化がなかった教員にも、研修によって若干の不安緩和があったことが分かった。また、その要因として、授業の行い方の基本的な理解ができたことを挙げた。

(3) アンケート項目間の相関

アンケート項目間の相関を調べるため、相関係数を計算した。「外国語活動の授業を行うことに対する自信」と、「授業の基本的な行い方の理解」に中程度の相関が見られた。

以上により、同校の4割の教員に、授業に対する自信の数値が上昇する効果があり、6割の教員も数値上の変化に至るまでではないが、自信を付ける効果があったことが分かった。不安の解消にも有効に作用していると言える。また、アンケート項目の相関から、教師の授業に対する自信向上(不安解消)には、授業の基本的な行い方の理解が重要であることが示唆される。

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

本研究において企画・実施した短時間研修は、教員個々による程度の差はあるものの、外国語授業に対する不安を緩和する上で有効であることが明らかになった。

(2) 研究の課題と改善策の作成

一方で、完全な不安解消に至っては至っておらず、研修の継続と更なる改善が求められる。そこで、本研修の四点の特徴はそのままに、以下の改善策を考案した。

改善策① 短時間研修ハンドブック作成

改善策② 教員からの要望を取り入れた研修計画の作成

改善策③ 振り返りの時間の設定

以上の取組により、来年度以降、更なる不安解消に向けて取り組む。